

人権の歴史と立憲主義

現代社会

憲法

政治

経済

国際社会

これから

今日の問い

人権の考えはどのように生まれ、日本国憲法はどんな原則でつくられたのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 人権の歴史

人権宣言

けんりしょうてん
権利章典

1689年、イギリスで議会が王の権力を制限した文書。

どくりつせんげん
独立宣言

1776年、アメリカが出した、人間の平等をうたう宣言。

けんぽう
ワイマール憲法

1919年、ドイツで社会権を取り入れた憲法。

人は生まれながらに自由で平等な権利をもつという考えを**人権**という。この考えは、国王が強い力で人々を支配した時代に、市民が権利を求める中で広まった。1689年、イギリスで議会在国王の権力を制限する**権利章典**が出された。ロックやルソーらの**啓蒙思想**も、人権の考えを広めた。こうした流れの中で、人々の自由を守るため、政治の権力を法で制限するという考え方が育っていった。

1776年、アメリカの**独立宣言**は、すべての人が平等で、生命・自由・幸福の追求の権利をもつと述べた。1789年、フランス革命で出された**フランス人権宣言**は、自由と平等、国民主権をうたった。20世紀に入ると、人間らしい生活の保障を求める社会権が重んじられ、1919年にドイツで**ワイマール憲法**が定められた。これは、社会権を世界で初めて取り入れた憲法とされる。



2 立憲主義と日本国憲法

三つの基本原則

りっけんしゅぎ
立憲主義

憲法で国の権力を制限して人権を守る考え方。

にほんこくけんぽう
日本国憲法

1946年に公布、1947年に施行された憲法。

きほんげんそく
基本原則

国民主権・基本的人権の尊重・平和主義。

憲法によって国の権力を制限し、国民の人権を守る政治のしくみを**立憲主義**という。憲法は国の最高法規であり、法律や命令で憲法に反するものは効力をもたない。日本では1889年に**大日本帝国憲法**が発布されたが、主権は天皇にあり、国民の権利は法律の範囲内で認められるにすぎなかった。

第二次世界大戦に敗れたあと、GHQの草案をもとに大日本帝国憲法を改正する形で新しい憲法がつくられ、帝国議会の審議を経て**日本国憲法**が1946年11月3日に公布され、1947年5月3日に施行された。この憲法は**国民主権**、**基本的人権の尊重**、**平和主義**の三つを基本原則とする。公布日の11月3日は「文化の日」、施行日の5月3日は**憲法記念日**として祝日になっている。この憲法のもとで、国民が政治の主役になった。人権の保障と権力の制限は、この憲法の大きな目的である。

問いへの答え

人権の考えは、権利章典や独立宣言、フランス人権宣言などを通して広まり、20世紀にはワイマール憲法が社会権を取り入れた。日本国憲法は、憲法で権力を制限する立憲主義にもとづき、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義の三つを基本原則とする。

次は **ノート** で、下線に語句を書きながら確かめよう →

